

事項	県南地域におけるながいも早植栽培でのアブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生推移						
ねらい	ながいもの早植栽培におけるアブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生推移は、普通栽培と異なることが明らかとなったので参考に供する。						
指導参考内容	1 早植栽培におけるアブラムシ類、ナガイモコガ及び葉渋病の発生推移						
	栽培法	植付時期	萌芽期	アブラムシ類		ナガイモコガ幼虫	葉渋病
				発生初め	発生盛期	発生初め	発生初め
	早植栽培	5 / 上	5 / 下	5 / 下	6 / 中～下	6 / 上	7 / 中
普通栽培	5 / 下	6 / 下	6 / 下	7 / 中	7 / 中	8 / 下	
	(注) 月 / 旬						
	<p>(1) アブラムシ類 ジャガイモヒゲナガアブラムシの発生は萌芽期から、ワタアブラムシは第1葉展開期頃から認められ、その後1か月の期間が多い。</p> <p>(2) ナガイモコガ幼虫による被害 ア 6月上旬頃から幼虫による加害が認められ、主つるや側枝先端の加害部位は黒褐色に枯れ、ネット中段付近で生育が止まり叢生状態となる。また、年間の発生回数は普通栽培に比べて1回多い。 イ これに対して、普通栽培では、主つるがネット上部に達する頃に幼虫の加害が始まるため、叢生状態となることは少ない。</p> <p>(3) 葉渋病 葉渋病の発生は、普通栽培に比べ1か月半程度早く、初発生時期は7月中旬頃となる。</p>						
	2 病害虫防除開始時期 病害虫の発生時期が早くなることから、それに対応して防除開始時期を早める必要がある。						
期待される効果	ながいもの早植栽培における防除時期設定の参考となる。						
利用上の注意事項	農薬を使用する場合は、必ず最新の「農薬登録情報」(http://www.maff.go.jp/j/nouyak_u/n_info/)を確認すること。						
担当部署 (担当者名)	青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場 病害虫防除室 (新藤潤一、山下一夫、石谷正博)			対象地域	県南地域		
発表文献等	平成18～20年度 青森県農林総合研究センター畑作園芸試験場成績概要集						

【根拠となった主要な試験結果】

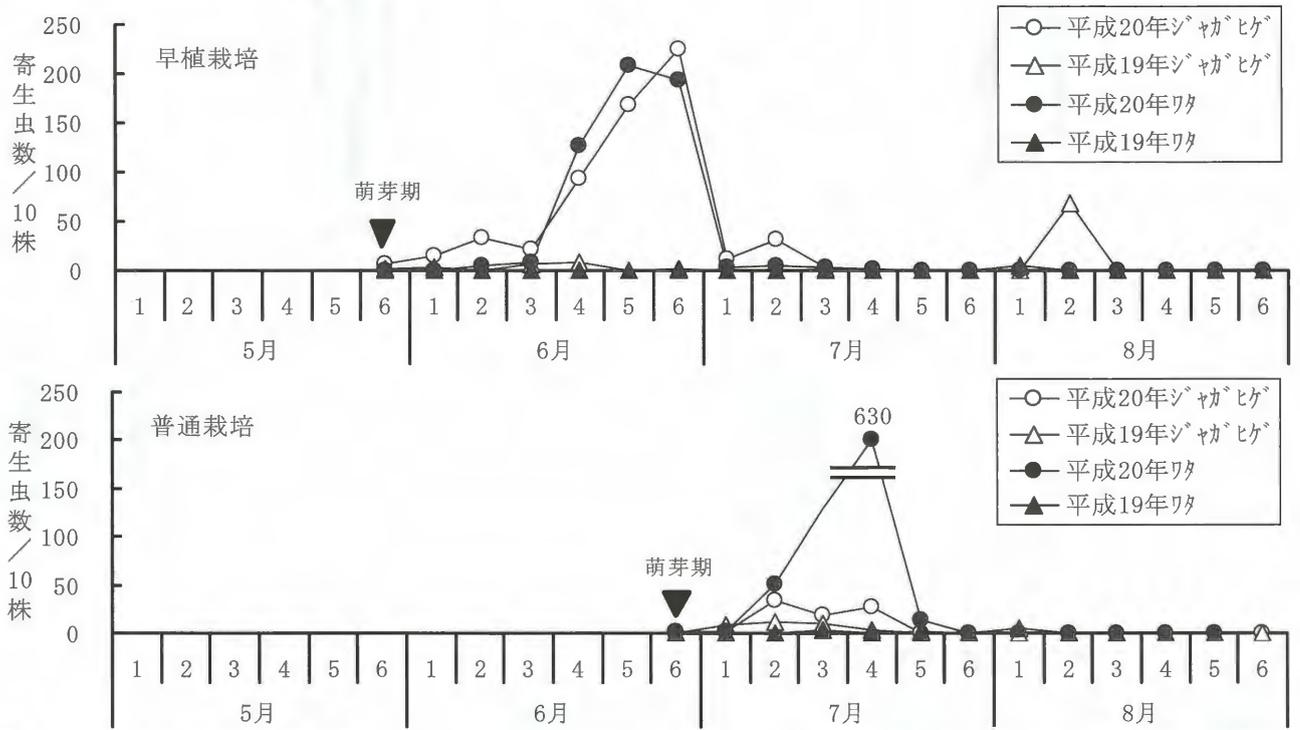


図1 アブラムシ類の発生消長

(平成19～20年 青森農林総研畑園試)



写真1 ながいも萌芽期におけるジャガイモヒゲナガアブラムシの寄生状況



写真2 ジャガイモヒゲナガアブラムシ



写真3 ワタアブラムシ

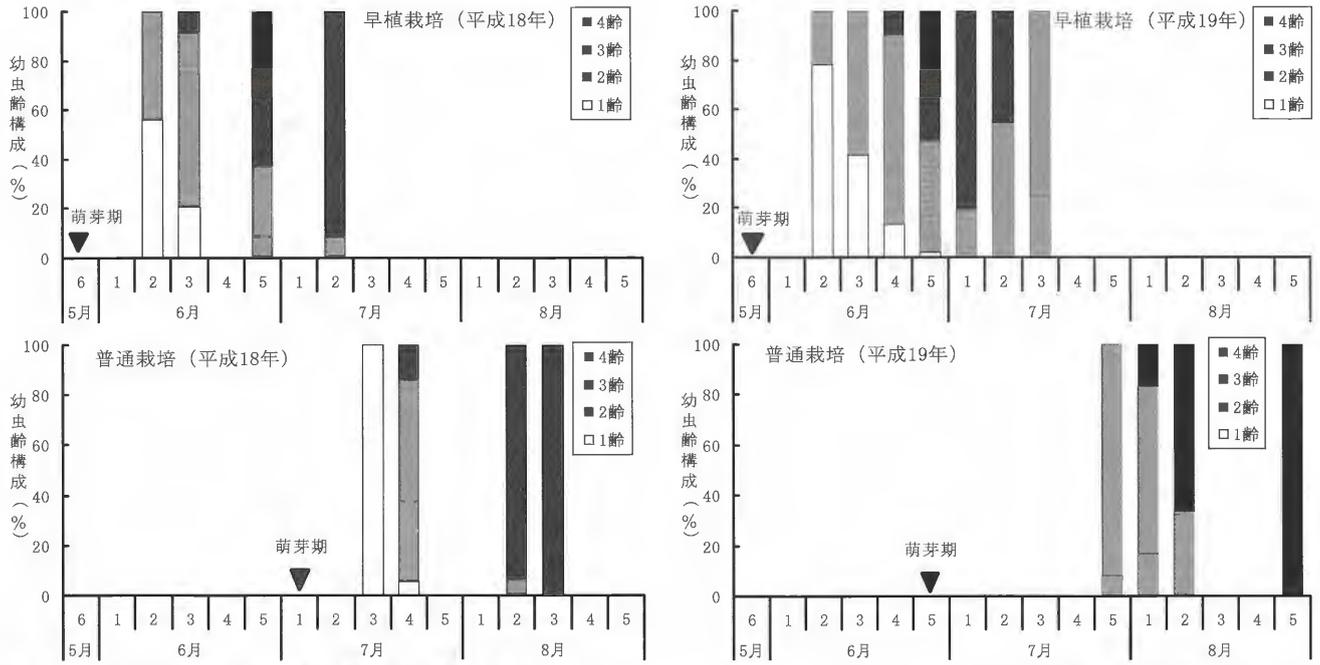


図2 ナガイモコガの发育諸態別発生推移

(平成18~19年 青森農林総研畑園試)



写真4 ナガイモコガ幼虫の加害により枯死した主つる先端部



写真5 ナガイモコガ幼虫加害後に見られた叢生症状

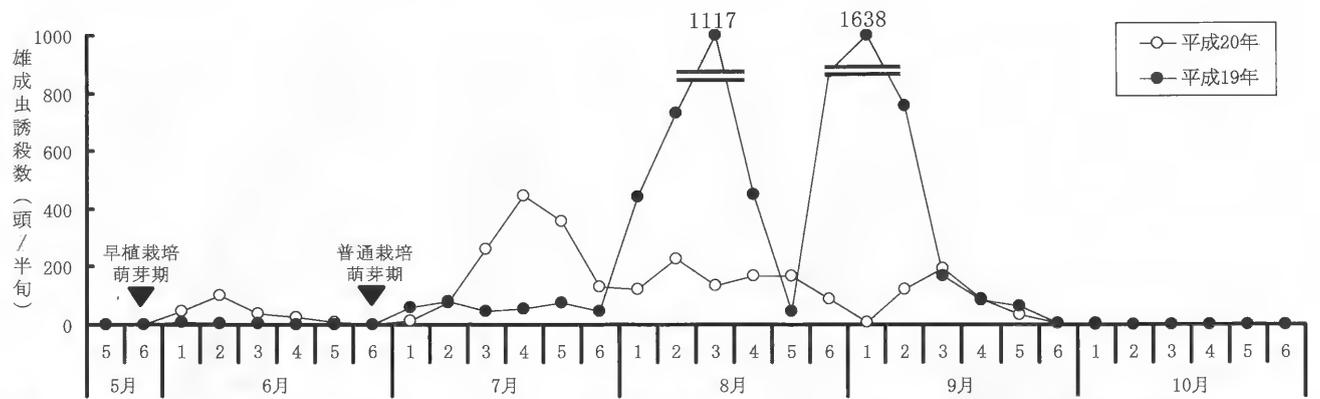


図3 ナガイモコガ成虫のフェロモントラップ誘殺消長

(平成19~20年 青森農林総研畑園試)

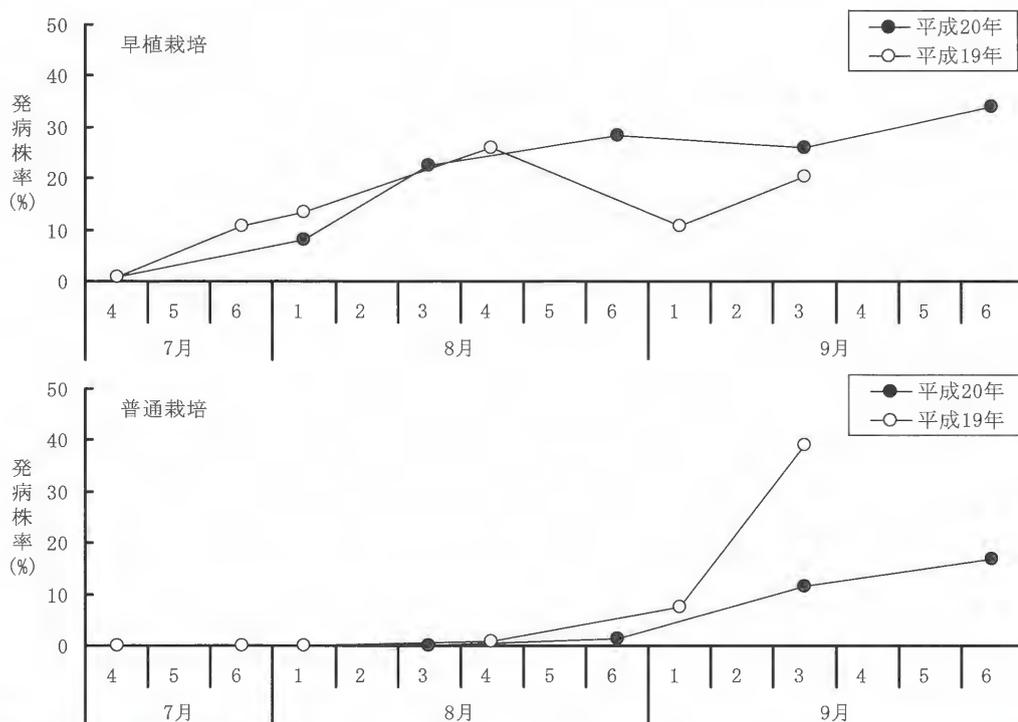


図4 葉渋病の発生推移 (平成19～20年 青森農林総研畑園試)



写真6 早植栽培における葉渋病の多発状況

耕種概要

供試品種 園試系6

定植月日 早植栽培：平成19年5月1日（頂芽付1年子100g）

平成20年5月2日（頂芽付1年子100g）

普通栽培：平成19年5月30日（頂芽切除1年子70～100g）

平成20年5月21日（頂芽切除1年子70～100g）

栽植様式等 うね幅120cm、株間27cm

施肥（成分kg/10a） N：P₂O₅：K₂O = 10：15：10（基肥）

N：P₂O₅：K₂O = 15：10：15（追肥）

その他 種いも消毒を除いて無防除